
マルチェロ画家人生

水乃ヘルギ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

マルチエロ画家人生

【Nコード】

N0309A

【作者名】

水乃ヘルギ

【あらすじ】

マルチエロはパリ大学の学生。ロドルフォ、コリーネ、シヨナールといった芸術家仲間とともに屋根裏生活を共にする。そのなかで出会った、ムゼッタ。彼女との恋模様、そしてミミの病状の悪化。・
・・・・はかないです。アンリ・ミュリユジエ作。

作者から伝言

今回マルチエロ視点の、ラ・ボエーム（ボヘミアンの生活）です。
ところでサガ（叙事詩）を先に書こうと想ったんですが――。
詩の解説はだめなので物語に変更。

サガ、と一口に言っても、内容はひとつではありませんですよ。
全部で百はないと想うんですが、多くても五十以上（自分が知る
限りでは）。

北欧神話とのつながりも結構深かったりします。
生まれはノルウェー、アイスランドやデンマークですから。

どうしましょ。

ギリシア語なんてうつつとくして、やってられないのに（汗。
くわえて、サガか……………。

クラヴィウスの理論もちよつとやらないとやばいし……………。

そんな切羽詰った状況で書きました。

いえね、奥さんもだんなも、坊ちゃん嬢ちゃんも、聞いて。
切羽つまらないと、書けないのよ……………。

クノップフ、じゃなかった、クセノフォンもそのうち主役にしま
す……………。

クノ……………あれは画家じゃないか（汗。

そうそう、話は変わって、デルヴォーとかたまに見ます。
一番はラファエロとレンブラントなんだけど……………。

マルチェロはパリで画家をやっている学生。

おともだちのロドルフォ、コリーネ、シヨナールたちと屋根裏生活をともしていた。

あるとき詩人を目指すロドルフォの彼女、ミミ（ルチア）がムゼッタという美少女を連れてきて、マルチェロは即座に心を寄せ、愛を告白した。

しかしムゼッタは貧しさが嫌いで、いつでもパトロンを連れていく。

マルチェロは怒り、ムゼッタの首を絞めようとするが……。

これじつは、レオン・カヴァルロとプッチーニで作る予定だったのに、プッチーニがロドルフォ視点で描いたラ・ボエームのほうが人気あり、カヴァルロが激怒したという逸話を持っています。

たしかにプッチーニの音楽は、ヴェルディに尊敬の念を抱いているだけあって、美しいです。

でもストーリーのほうは、イッリカ（ライター）よりもレオンのほうが面白い気もするんだよね。

……なぜか。

作者から伝言（後書き）

レ・ミゼも好きですが、ラ・ボエームはいい作品。
キャラが個性あるんですよ。

カンデイドも演劇公演してましたが、ラ・ボエームもよく公演
の広告を見るので、興味あればどうぞ。
でもオペラだからどうかなく。

ああいうのは好きな人は、感動した、と言っけどね。

登場人物

登場人物

四人の若者は、屋根裏部屋で生活するパリの学生。
貧しいながらも楽しい我が家……。！！？

マルチエロ（マルセル）

主人公。

画家というだけあって、ちょっと変わり者。
かなり面食い？

ロドルフォ

マルチエロのパートナー。

詩人。

最近では、フリードリヒ・シラーのヴィルヘルム・テルを手がけるなど、活躍しているらしい。

コリーネ

哲学者で偏屈な精神の持ち主。
根は優しい。

シヨナール

モーツァルトを目指す音楽家で、ピアノが得意。
ヴァイオリンもできる。

ミミ

お針子でロドルフォの恋人。
屋根裏で生活する。本名はルチア。
肺病を患っている。

ムゼッタ

マルチェロの恋人になるが、典型的な美人でパトロンばかり作っている。

登場人物（後書き）

パリの学生たちはカルティエ・ラタンと呼ばれる町で暮らし、和む場所はカフェ・モミュスというレストランでした。

といってもこれは十八世紀から十九世紀にかけての話なので、物は今の比ではないかな。

カフェ・モミユス

パリ。

花の都パリ。

ここで暮らす若者は大勢おり、だいたいがカフェ・モミユスという店で食事をするのが日課となっていた。

マルチェロもそのひとりで、仲間との話し合いにはそこを使っていた。

しかし、カフェの主人はシヨナールと仲間たちがいつも大騒ぎするので迷惑だと怒りだした。

「今日という今日は、どうにかしてもらうからな、シヨナール！」

「まあまあ、今夜、晩餐会をするんですが、そのときまで待ってもらえたら請求どおりに金も払いますから」

ということで、シヨナールは主人の怒りをどうにか、おさめた。

そこへマルチェロとロドルフォがあらわれて、ロドルフォにつれられてシヨナールの恋人、エウファミア、そしてコリーネもやってきて席に着く。

続いて、ロドルフォの恋人のミミがやってきて、ムゼッタを紹介した。

「ムゼッタよ、ともだちなの」

「よろしく、みなさん」

マルチェロはムゼッタの美しさの虜になってしまい、いつまでも彼女に見惚れる。

「よし、食事でも注文しよう。そうだムゼッタ。歌手を目指してるんだって、歌ってくれよ」

シヨナールが言っと、ほかのみなもムゼッタに歌を乞う。

「じゃあワルツでも」

マルチェロはますますうっとり。

「はあ、彼女きれいだねえ」

「そんなことより、お金がないっ」

ロドルフォは舌とともに財布を出した。

「うわ、どうするんだ」

そこへ主人が仁王立ちして、ロドルフォの背後に立った。

「どくすんだく。勘定が払えないなら、ここから出さないぞ！」

「そ、そんな！」

ロドルフォは両手でこめかみを押さえる。

「うわく、うわく。どうすりゃいいんだく」

「待たれよ」

貴族の服を身につけた紳士があらわれ、

「わしは芸術を愛している。きみたちの才能に感動したお礼だ、ビリヤードで勝負しないか。君たちが勝てばわしが勘定を払う」

紳士はわざと負けてやり、勘定を支払ってくれた。

マルチェロは思い切って、ムゼッタにこう願ひ出た。

「今度、絵のモデルになってくれないかな。きみの肖像画を描きたいんだ」

ムゼッタはマルチェロの熱烈なアプローチに、クラクラ。

「いいわよ」

マルチェロは絵がきつかけとなり、ムゼッタと親しくなった。

カフェ・モミユス（後書き）

マルチエロとムゼッタは、熱烈に惹かれますが、亀裂が生じます。
それも些細なことで。

恋愛の醍醐味・・・・・・・・？

欲張りミミ

ムゼッタのパトロンが、画家マルチェロの存在に気づき、ムゼッタへの資金援助を断ち切ってしまったため、借金が重なり、ムゼッタは家財道具を返せと業者をなじる。

「ムゼッタ、ムゼッタ。そう怒るでないよ」

そこへマルチェロがあらわれて、事情を知るとムゼッタをなだめ、「わかった、借金は俺が何とかしてやる。心配するな」

といいながらムゼッタを抱きしめた。

「愛してるわ、マルチェロ……」

しかしマルチェロは今夜パーティがあることを思い出し、

「はっ！　そういえば今夜みんなが集まるんだっけ」

そこにシヨナールがあらわれたので、マルチェロとムゼッタはあわてて離れた。

「はあ、困ったぞ。家賃が払えないので追い出されてしまったんだ！　」

「なに！？」

「はっはっはっは」

上機嫌であらわれたロドルフォは、大金を持ってあらわれる。

「俺が書いた『復讐者』って本が売れたんだ。ここに30リラあるので、これでパーティを開こう」

ミミやエウファミアもやってきたので、パーティが始まると、通りがかりの人までが混ざり、ボエーム賛歌を歌いだした。

ところが、ミミに目をつけた子爵が、ミミに声をかける。

「君のような美しい子が、あんな貧しい輩といることは不釣り合いだ。私とくれば贅沢ができるがね」

美しい子、という単語にうっとりしたミミは、さっさと子爵の馬

車に乗っかる。

奥でピアノを弾くシヨナールに付き合い、書いた詩を歌っていた
ロドルフォはミミのいないことに気づいた。

門番は、

「ミミさんならさつき、貴族の馬車に乗っていつちやいましたよ」

ロドルフォは気が狂わんばかり、パーティのバカ騒ぎに怒り、文
句を言う近所の住民たちがおこした騒動の渦中へと身を投じた。

欲張りミミ(後書き)

ミミはねえ、なんともコメントしづらい娘ですよ。
ほんと。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0309a/>

マルチェロ画家人生

2010年10月11日16時53分発行